

令和元年度 教育事業(指導者等養成研修事業)

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村(13年目)

1 事業概要

大学生は、最初の3日間でリーダーシップや子どもへの接し方、集団作りの技法、伝承文化について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。4日間、小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身に付けるとともに、活動を通して伝承文化を小学生に伝えた。



2 事業の目的(ねらい)

地域を大切にし、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験の融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育むとともに、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

3 企画のポイント

大学生参加者を3つの区分に分け、初年度の参加となる通常クラス、2回目の参加となる上級クラス、3回目以上の参加となるアドバンスクラスを設けている。これは参加回数に応じた学びが得られるように工夫を加えたもので、通常クラスは他の参加者との協働する力を、上級クラスは課題発見能力を、アドバンスクラスはマネジメント能力を養成できるようにそれぞれの役割を明確にして事業を実施した。

4 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
国立大学法人 愛媛大学

5 後 援 [後援] 愛媛県教育委員会 西予市教育委員会 大洲市教育委員会
[協力] 西予市野村町惣川「土居家」

6 期 日 令和元年8月18日(日)～24日(土)
※大学生を対象とした参加者講習会を7月25日(木)に実施
※子どもむかし生活体験村は8月21日(水)～24日(土)に実施

7 場 所 国立大洲青少年交流の家 18日～19日、23日～24日
西予市野村町惣川「土居家」 19日～23日

8 参加人数 大学生15名
[子どもむかし生活体験村 小学校4～6年生20名(募集人数20名)]

9 講 師 上田 謙 氏(愛媛県教育委員会事務局社会教育課社会教育主事)
小野 翠 氏(内子町八日市・護国町町並保存センター学芸員)
大本 敬久 氏(愛媛県歴史文化博物館専門学芸員)
西予市野村町惣川地区の方々

山崎 哲司 氏 (愛媛大学教授) 日野 克博 氏 (愛媛大学教授)
 高橋 平徳 氏 (愛媛大学講師) 西予市野村町惣川地区の皆さん
 大洲地区広域消防事務組合消防署員 国立大洲青少年交流の家 職員

10 日 程 ※太字は法人ボランティア養成講座部分

7/25 (木)	16:30											18:30					
	(説明) 青少年教育施設における ボランティア活動																
8/18 (日)	12:30 13:00 14:00											15:00		18:00 19:30		21:00 22:00	
		受付	開 講 式	(講義・演習) ボランティア 活動の技術 アイスブレイク	(講義・演習) 安全管理 普通救命講習Ⅰ	夕食 入浴	(講義・演習) ボランティア 活動の意義	情報 交流会	就寝								
8/19 (月)	9:00 10:00		12:00 13:00		13:30 15:30		17:00 18:00		20:00 21:00		22:00						
	(講義) 青少年教 育施設の 現状と運 営	(講義) 青少年教育	昼 食	移動 内子 へ	(講義) ボランティア 活動の技術 内子町フィー ルドワーク	移動 土居家へ	荷物移動	夕食 入浴	(演習) ボランティア 活動の技術 プログラム計画	ふりかえり 企画会	就寝						
8/20 (火)	9:00			12:00 13:00		16:30			17:30 19:30		21:00 22:00						
	水辺の活動 フィールドビンゴ			昼 食	竹食器・竹箸づくり うちわ作り			運営準備	夕食 入浴	運営準備	ふりかえり 企画会	就寝					
8/21 (水)	9:00		10:30		12:00 13:00		14:30			17:30 19:30		21:00 22:00					
	子どもむかし 生活体験村 運営準備	開 村 式	仲間 づくり ゲーム	昼 食	愛媛の民俗文化 について		竹食器・竹箸づくり 竹の遊び道具づくり		夕食 入浴	班活動 目標づくり	ふりかえり 企画会	就寝					
8/22 (木)	9:00			12:00 13:00		17:00 19:30			21:00 22:00								
	うちわづくり			昼 食	リーダーズプログラム①			入浴 夕食	リーダーズ プログラム②	ふりかえり 企画会	就寝						
8/23 (金)	9:00			12:00 13:00		15:00 15:15		17:00		17:30 19:30		20:30 22:00					
	うどんづくり			昼 食	土居家 清掃・片付け	土居家 退家式	バス移動 交流の家へ	片付け 部屋入り	夕食 入浴	思い出 発表準備	ふりかえり	就寝					
8/24 (土)	9:00 10:00		11:00 12:00														
	思い出 発表準備	閉村式 思い出発表	ふりかえり 閉講式	大学生解散													

11 活動内容

〈第1日【8月18日(日)】〉交流の家

「ボランティア活動の技術①」(14:00~15:00)

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

大学生参加者の緊張をほぐし、「子どもむかし生活体験村」で行われる「仲間づくりゲーム」での指導方法を学んでもらうため、グループワークゲームを実施した。



「安全管理」(15:00~18:00)

講師：大洲地区広域消防事務組合消防署員

心肺蘇生法やAEDの使用方法や毛布を使っての運搬方法など、多くの事を教わった。緊急時に対応できるように、全員が真剣な表情で取り組んでいた。

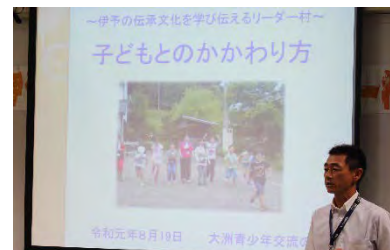


「ボランティア活動の意義」(19:30~21:00)

講師：上田 謙 氏

(愛媛県教育委員会事務局社会教育課社会教育主事)

小学生との生活体験を控えて、小学生への接し方とグループのルール作りや目標作りの手法について、上田氏から講義いただいた。子どもたちとかがわる際のポイントについても具体的に学ぶことができた。



【第2日【8月19日(月)】】 交流の家・内子町『町並み保存地区』・西予市野村町惣川『土居家』

「青少年教育施設の現状と運営、青少年教育」(9:00~12:00)

講師：高橋 平徳 氏 (愛媛大学講師)

日野 克博 氏 (愛媛大学教授)

山崎 哲司 氏 (愛媛大学教授)

体験学習について、地域に根ざしたリーダーの育成について、現代の教育について、3名の先生方から講義を受けた。



「ボランティア活動の技術②」(13:30~15:30)

講師：小野 翠 氏

(内子町八日市・護国町町並保存センター学芸員)

大森和蠟燭店の見学では、和蠟燭職人から普段使っている蠟燭(洋蠟燭)と和蠟燭との違いや和蠟燭の良さについて学んだ。上芳我家では、小野氏の案内で伝統的家屋の特徴について見て回り、資料館で内子と和蠟燭の関わりについて詳しく説明を受けた。



「ボランティア活動の技術③」(20:00~21:00)

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

KYT(危険予知トレーニング)や合理的配慮、視覚支援について講義があった。リスクマネジメントの考え方を学ぶと共に、配慮という視点での考え方を確認することができた。



〈第3日【8月20日（火）】土居家周辺・三島神社・親水公園

「フィールドビンゴ・水辺の活動」（8：30～12：00）

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

フィールドビンゴでは、自然の中にあるチクチクしたもの等を探しながら、約2キロの道のりを移動した。三島神社では、むかし遊びを行うため、場所の確認等を行った。親水公園では、川に入り、川の流れや深さなども体感した。小学生が安全に川遊びができるように、大学生は危険箇所を探し、現地踏査も行った。



「うちわ、竹食器作り」（13：30～16：30）

講師：国立大洲青少年交流の家 職員

子どもむかし生活体験村では、大学生が小学生にうちわと竹食器の作り方を指導するため、技術を習得しようと全員が熱心に取り組んでいた。またナイフも使うため、安全面への配慮事項も確認することができた。



〈第4日【8月21日（水）】西予市野村町惣川『土居家』

『子どもむかし生活体験村』運営準備・開村式・仲間づくりゲーム」（9：00～12：00）

運営準備では、役割分担と小学生を出迎えた後の流れについて確認を行った。小学生の到着後には、「仲間づくりゲーム」を行い、初日の活動で大学生リーダーが経験したアイスブレイクを担当リーダーが自分たちなりにアレンジしたもので、活動が進むにつれて全員に自然な笑顔が広がった。

「愛媛の民俗文化について」（13：00～14：30）

講師：大本 敬久 氏（愛媛県歴史文化博物館 専門学芸員）

西予市の重要文化財である「土居家」は、伊予と土佐を結ぶ街道の宿場町として栄えた惣川の庄屋屋敷として文政10年（1827年）に建築されたと伝えられている。傷みの激しかったこの屋敷は平成10年に現在の形に修復され、西予市の重要文化財に指定された。大本氏から土居家の建築的特徴について説明を受けた。



「竹食器・竹箸づくり、竹の遊び道具づくり」（14：30～17：30）

講師：西予市野村町惣川地区の方々

地元惣川地区の方々に指導いただきながら、小学生が竹食器を作成したが、大学生は安全管理に気を配りサポートをした。小学生がのこぎりで竹を切る際には、大学生と小学生協力し、竹が動かないように体重をかけて押さえ、切りやすいように支援していた。



「目標づくり」（19：30～21：00）

班ごとに目標を立てた。大学生は小学生から言葉を引き出し、班の全員の思いを画用紙にまとめた。小学生が班ごとに全体の前で発表したが、大学生は小学生が緊張しないように、優しい言葉を掛けたり、そばで見守ったり、これまでの講義で学んだ子供とのかかわり方や配慮という視点をもって、接することができていた。



〈第5日【8月22日（木）】〉西予市野村町惣川『土居家』・野村少年自然の家

「うちわづくり」等（9：00～12：00）

大学生がうちわの作り方について指導した。班の仲間で協力してうちわづくりを進める過程で話も弾んできており、どんどん打ち解けていく様子がみられた。特に、うちわに描くイラストを大学生と小学生が相談しながら決めている姿は、見ていて微笑ましかった。



「リーダーズプログラム①」（13：00～17：00）

大学生は自然体験やむかし遊びを小学生にさせたくて、3つプログラムを考えた。フィールドビンゴでは、自然の植物や風景を意識するような言葉を掛け、小学生が普段より意識して観察するように促していた。三島神社では長縄跳びを行った。大学生と小学生が協力して、一回でも多く跳べるように何度もチャレンジしていた。親水公園では川に入り、川の流れや深さなども体感した。大学生は川の中や、川岸から安全を確認しながら一緒に活動をした。



「リーダーズプログラム②」（19：30～21：00）

内子町の和蝋燭が入った提灯を持ち、ナイトハイクを行った。大学生は土居家近隣にチェックポイントを設け、小学生が楽しみながら歩くように工夫をした。また、暗闇の中を歩くので少し不安な小学生もいたが、大学生は言葉を掛けたり、手を繋いだり、安心できるように寄り添い、全員が最後まで歩くことができた。出発前には暗かった土居家が、ゴールするとライトアップされており、全員が感動する様子が見られた。



〈第6日【8月23日（金）】〉西予市野村町惣川『土居家』・野村少年自然の家・交流の家

「うどんづくり」（9：00～12：00）

講師：西予市野村町惣川地区の方々

野村少年自然の家の食堂を利用してうどんづくりを行った。大学生は惣川地区の方々と事前に打ち合わせを行ったり、朝早くから準備を手伝ったりした。コシの強いうどんを作るため、大学生が小学生を背負ってうどん粉を踏み、協力してうどん作りに励んでいた。できあがったうどんはとてもおいしく、全員がたくさん食べていた。



〈第7日【8月24日（土）】〉交流の家

「思い出発表・閉村式・ふりかえり・閉講式」（10：00～12：00）

大学生が司会を務め、前方から小学生が班ごとに席から立って思い出を発表し、部屋の中央に座った保護者がそれを聞き、後方で大学生が見守るといった形で実施した。大学生が閉村式を締めくくろうとした時、小学生から大学生へのサプライズが行われた。前日夜に大学生がふりかえりを行っている間に練習した歌と感謝の手紙が大学生に送られ、会場にいた保護者の涙も誘い、4日間の共同生活が締めくくられた。



1 3 参加者の声

参加者の事後アンケートの結果

【大学生】 *満足：100% *やや満足：0% *やや不満：0% *不満：0%

- 本当に濃い経験ができて、自分が変わったという自覚ができたので参加して良かったです。
- リーダー村に参加できて、たくさん成長することができました。ありがとうございました。

【小学生】 *満足85% *やや満足：10% *やや不満：5% *不満：0%

- 心が大きくなった。(10歳・男子)
- とても楽しい4日間だった。これを企画してくれた大学生達、ありがとう。(10歳・男子)
- お姉さん、お兄さんが優しくかった。楽しかった。(10歳・女子)

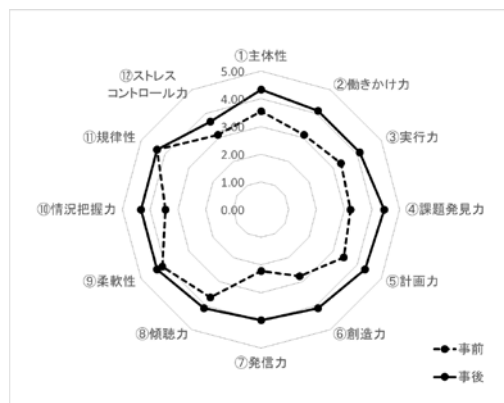
【小学生保護者】 ※実施3ヶ月後のアンケート調査への回答より

- とても楽しかったと表情が満足した顔であり、生き生きしていた。またできたら参加したいとの声からも充実していたのだと思った。経験のないことをすることで、いろいろな事に挑戦しようとする姿勢が多く見られるようになったと思う。
- 子供が大学生になった時、このような企画に参加し、今度はサポートする側となれたらいいなと思いました。
- 学生さんが本当に熱意をもって子供達に関わってくれてとても嬉しかったです。将来先生を目指しているのか分かりませんが、もしそうなら、今の気持ちを忘れずに是非子供と関わる仕事に就いてもらいたいと思います。ありがとうございました。

1 4 成果と課題

【成果1】大学生に社会人基礎力が身に付いたこと

事業前と事業後に「社会人基礎力」の測定を行った。どの学生も押し並べて数値が向上していた。特に②の「働きかけ力」④の「課題発見力」⑥の「創造力」⑦の「発信力」⑩の「状況把握力」の伸びが目立っている。この結果は、本事業が指導者等養成研修事業として有効であることを示している。また、学んだり体験したりしたことを子どもにどのように分かりやすく伝えるか、大学生がリフレクションしながら身に付けていったのではないかと考える。



【成果2】参加した小学生にたくましさが身に付いたこと

本事業での体験が、小学生にどのような変化をもたらせたのかを調査するために、子どもむかし生活体験村に参加した小学生に対して「IKR（生きる力）評定用紙（簡易版）」による調査を事業の前後に実施した。全ての項目で向上しており、特に「生きる力の変容」の向上に有意差が見られた。

【課題1】スタッフの充実

所外での事業運営とあって、必要物品の運搬や会場づくり等、移動の際には人手が必要となる。しかし、大学カヌーの指導や別事業の準備等のため、人手の確保が難しくなっている。日程調整や職員の勤務状況を検討していく必要があると思われる。

【課題2】活動場所の検討

土居家は野村町惣川の自然豊かな場所にあり、文化的価値の高い建物でもあり、とても魅力的な活動場所である。また惣川地区の方々も非常に協力的であり、事業に対しても理解してもらっている。しかし、入浴施設の存続が検討されており、存続されなければ活動場所の検討が必要となる。

(担当：企画指導専門職 武藤健太郎)